

英米文化学会会報

第 59 号

平成 16 年 5 月 1 8 日版



平成 15 年度も無事終了 (第 113 回例会懇親会にて)

目次

- 第 114 回例会および臨時総会開催のお知らせ
- 例会発表レジュメ
- 第 22 回大会のお知らせ
- 『英米文化』投稿のお願い
- 分科会会員募集
- 事務局からのお知らせ

英米文化学会第 114 回例会および臨時総会開催のお知らせ

表記の会を下記の要領で開催します。万障お繰り合わせの上ぜひご出席ください。

(定例の日大歯学部ではありません。ご注意ください)

日時：平成 16 年 6 月 12 日(土) 午後 3 時～午後 5 時 10 分 午後 2 時 30 分受付開始

場所：昭和女子大研究会館 視聴覚教室 7L04、7L02(控え室)

(半蔵門線三軒茶屋駅、徒歩 5 分、バス昭和女子大学前 徒歩 1 分)

当日会費：100 円

臨時総会：午後 5 時 10 分～40 分 (例会後、続けて臨時総会を開きます)

懇親会：午後 6 時 00 分～8 時 会場：レストラン・プレリユード (人見記念講堂地下)

会費：3000 円

懇親会のみへの参加も歓迎いたします

< 研究発表 >

1. Tintern Abbey 廃墟から食卓へ (15:00 -- 15:40)
発表 鈴木正彦 (駒沢女子大学)
司会 川口淑子 (東京工科大学)
2. ロビンソンのマーリン像 (15:40 16:20)
発表 塚田英博 (城西大学)
司会 鈴木正彦 (駒沢女子大学)
- 小休止 (16:20 16:30)
3. レズビアン の歴史と運動 映画『ウーマン・ラブ・ウーマン』を通して (16:30 17:10)
発表 吉原令子 (法政大学)
司会 吉田俊実 (東京工科大学)

研究発表レジュメ

1. Tintern Abbey 廃墟から食卓へ

鈴木正彦 (駒沢女子大学)

Henry VIII による修道院の解散以降、Tintern Abbey は廃墟と化し荒廃の道を辿るが、18世紀ロマン派詩人 W. Wordsworth が謳い (1798)、W. Gilpin が Picturesque Tour の宣言書 Observations on the River Wye (1800) で "gothic" の廃墟美とそのワイ川一帯の風景の崇高美 (sublime beauty) を讃える。また P.R.B. の画家の 1 人、B. W. Leader が描いた "Tintern Abbey-Moonlight on the Wye" (1900) が、デフォルメされた形で陶磁器のデザインとして用いられることにもなる。英国の文化遺産とも言える Tintern Abbey の生活や食卓文化を、具体例をあげながら発表する。

2. ロビンソンのマーリン像

塚田英博 (城西大学)

アーサー王伝説は文学界において、現在でも人気の高いテーマである。ロビンソンの『マーリン』と同年 (1917 年) のものには、シドニー・ラニアの『アーサー王と円卓の騎士』があり、最近ではイギリスの歴史小説家ローズマリー・サトクリフがアーサー王三部作を書いている。このような作品はサー・トマス・マロリーの『アーサー王の死』の内容とほとんど類似している。しかし、ロビンソンの『マーリン』では賢者であり魔法使いであるマーリンの描写、アーサー王の行為に対する評価が、マロリーのものとは異なったものになっている。一般に知れ渡っているマーリン像とは異なる像を作り出したロビンソンの意図は何なのか。本発表ではこの問いに答えるために、マロリーの作品と比較対照しながらロビンソンのマーリン像の意図を探り、最終的にはロビンソンの現実世界の捉え方を明らかにする。

3. レズビアン の歴史と運動 映画『ウーマン・ラブ・ウーマン』を通して

吉原令子 (法政大学)

アメリカにおける映像の世界では、従来のジェンダー規範に囚われない多様なジェンダーやセクシュアリティを表象する映画が増えている。ゲイやレズビアンが主人公の映画や、トランスジェンダーやトランスセクシュアルが登場する映画が、1990 年代以降に多く制作されている。このようなジェンダーやセクシュアリティに関する多様な表象の状況変化は、一体、何を

示しているのだろうか。言い換えれば、映画におけるジェンダーやセクシュアリティの変容を私たちはどう理解し、分析することができるのか。今回の発表では、2000年にアメリカでつくられたテレビ映画『この壁が話せたら パート2(日本では『ウーマン・ラブ・ウーマン』という邦題でリリースされた)を取り上げ、レズビアンのが描かれ、何が描かれていないのかを検証する。表象と現実のずれを検証し、そこから生み出される新たな問題性をあぶり出していきたい。

英米文化学会第22回大会のお知らせ

以下の要領で大会を開催いたします。奮ってご参加ください。

場所：文京学院大学軽井沢セミナーハウス（軽井沢駅から約3キロ。タクシーで数分）

日時：2004年9月11日（土）14時から18時、12日（日）9時から15時。

発表：順番未定。

- (1) ブラックプールの人類学 マス・オブザヴェーション運動と1930年代労働者階級レジャーの様相に関する一考察 福西 由美子（東京大学大学院）
- (2) アトウッドの動物に込められた意味 塚田 英博（城西大学）
- (3) 「女方」はグロテスクか？ 日英比較演劇学の視点から 門野 泉（清泉女子大学）
- (4) ホップズのリヴァイアサンとは鯨の意味なのか 小林 弘（東京理科大学）
- (5) フレームにおける際立ちの働き 亀山 孝（共愛学園高等学校）他未定
- (6) アメリカの株式会社による公立学校経営 サンフランシスコ統合学区のエジソン・チャーター・アカデミーを事例として 鶴浦 裕（文京学院大学）
- (7) 図表を利用した読解力養成のための研究 平野 靖雄（千葉大学）
- (8) アメリカ理解教育を目的とした授業実践構想 多文化社会アメリカ理解教育の单元開発 田嶋 英治（東京都立井草高等学校）

講演（11日16時）：小林章夫（上智大学英文科教授『パブリックスクール』など多数のイギリス文化論の著者）

講演タイトル『ジョージ・クルックシャンクと19世紀イギリス文化』

懇親会（11日18時）は文京学院大学軽井沢セミナーハウスの食堂で開かれます。費用は5000円です。

大会の宿泊希望の募集について

11日の宿泊希望者は以下の(1)か(2)を明記の上、メールまたは葉書で事務局までご連絡ください。

場所：文京学院大学軽井沢セミナーハウス（二人部屋）

費用：8,200円（懇親会費および翌日の朝食・昼食代込み）

申し込みの種類は次の二種類です。(1) 宿泊希望（8,200円）あるいは(2) 懇親会参加のみ希望（5,000円）です。

紀要『英米文化』35号論文投稿のお願い

紀要『英米文化』34号では、応募論文総数が17本、審査委員会の厳正な審査の上、掲載論文は11本となりました。審査委員34人（延べ人数）がこれにあたりました。関係の諸先生には深く感謝いたします。なお、投稿論文の改善に役立てていただく趣旨から、全投稿論文に対して査読委員の意見を送付しております。

皆様から『英米文化』35号の投稿をお待ちしています。締め切りは、10月末日です。

学術担当理事 上野 和子

分科会会員募集

「会報」(58号)にて御案内いたしました「ビクトリア朝研究」の研究員の募集を7月31日
までといたしますので、参加御希望の方は 発起人代表 鈴木正彦氏
(1239188301@jcom.home.ne.jp)まで 御連絡を頂きたいと思ます。

事務局からのお知らせ

年会費納入のお願い

同封の郵便振替用紙にて、平成16年度の年会費の納入をお願い致します。納入状況等に
つきましてのお尋ねは、財務担当の大東(daito@human.ac.jp)までお寄せください。なお、
事務処理の都合上、郵便振替用紙は全会員にお送りしておりますので、年会費の納入と行き
違いになることがあるかと存じますが、その節には何とぞご容赦ください。

年会費：5,000円

口座番号：00160-7-611777

加入者名：英米文化学会

会員の動き

【新入会員】

省略

【住所変更(新住所など)】

省略

英米文化学会会報 第59号

編集/発行：英米文化学会

編集責任者：石山伊佐夫(広報担当)

Isaolshiyama@SES-online.jp

〒224-0028 横浜市都筑区大圃西3-3-1001

045-592-6570

年会費等振込先：郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777

問い合わせ先 英米文化学会事務局 佐藤治夫 03-3219-8160-

E-mail: HaruoSato@SES-online.jp 学会ホームページ <http://www.SES-online.jp/indexj.html>